

東北風景写真家協会会員向け会報「東風季報」第22号です。当会報は会の行事、活動計画、各種のお知らせ、撮影適所、撮影情報、撮影テクニックなどの記事を掲載しております。

# 東風季報

発行 東北風景写真家協会  
〒980-0803 仙台市青葉区国分町 3-8-1  
勾当台ビル1階 エーゼット・フォト内  
Tel 022-722-3755, Fax 022-722-3766  
編集 秋葉・進藤・藤枝

## 東北風景写真家協会 第7回定期総会報告

1月20日(日)第7回定期総会を仙台市・戦災復興記念館4階研修室を使用して開催しました。総会に先立ち昨年に引き続き角館から小松ひとみプロをお招きし、スライド&トークセミナー「写真の話いろいろ」を開催。前回好評でしたので今回は満席になりました。「別欄に要約を記載」総会は提出された議事・議案は全て承認され無事終了いたしました。当日セミナー及び総会の際にはお送りさせて頂きました。

総会は午後4時15分より況報告を説明。

り佐々木康照監事の司会下で開会宣言。竹内会長のご挨拶は渡邊会計幹事が説明。協会は平成18年に発足して以来7回目の総会を本日迎えることが出来ました。その間東日本大震災を受け、被災された石巻市の北上をはじめとして出来る限り支援活動が続けてきており、今後も各地のボランティア活動を継続してゆきたいと思っております。役員、幹事、並びに会員皆様のご協力を得てより一層充実した会の運営に努めてまいります」とご挨拶頂きました。

引き続き定足数を確保(出席者56名、委任状31名、在籍会員104名)総会の成立を報告。議長選出で参加会員より事務局長の発言があり、丸山副会長を選出。議長挨拶の後議事に入った。

(1)平成24年度事業報告は進藤幹事長より、一般事項、撮影会及び勉強会、会報発行状況、役員会・幹事会開催状況、会員移動状況

加者の費用負担が必要で参加人数の把握等の問題があり検討中。撮影会は過去に八甲田や南湖公園・裏磐梯・那須方面を実施。会員が別に加盟して各クラブで東北方面を実施している事もあり、行き難い地域を企画している旨説明し(4)案を一括了承を得ました。

(7)その他の議事は特に無く全議案の承認を得て議長解任、無事終了。参加希望者で会場を仙台ライオン一番町店に移し、午後6時より小松プロも加わって、松本幹事の司会、能代より参加の小松会員の乾杯の音頭で参加者の持ち込んだ賞品のくじ引き等楽しい一夜を過ごしました。



## 小松ひとみ 「写真の話いろいろ」 スライド&トークセミナー

今年も写真誌や河北写し、真展の審査員をつとめておられる写真家小松ひとみさんをお招きして、セミナーを開きました。石川編集長より、美しい風景写真100人展への関心の高まりとさらなるいざないの言葉を、小松さんを通じていただきました。100人展は、富士フィルムと「風景写真」編集部が主催し、公募アマチュア80人と招待プロ20人のフィルム写真からなります。この写真を作り上げる中から石川編集長が選ばれた30点について、栗駒山

今年も写真誌や河北写し、真展の審査員をつとめておられる写真家小松ひとみさんをお招きして、セミナーを開きました。石川編集長より、美しい風景写真100人展への関心の高まりとさらなるいざないの言葉を、小松さんを通じていただきました。100人展は、富士フィルムと「風景写真」編集部が主催し、公募アマチュア80人と招待プロ20人のフィルム写真からなります。この写真を作り上げる中から石川編集長が選ばれた30点について、栗駒山

今年も写真誌や河北写し、真展の審査員をつとめておられる写真家小松ひとみさんをお招きして、セミナーを開きました。石川編集長より、美しい風景写真100人展への関心の高まりとさらなるいざないの言葉を、小松さんを通じていただきました。100人展は、富士フィルムと「風景写真」編集部が主催し、公募アマチュア80人と招待プロ20人のフィルム写真からなります。この写真を作り上げる中から石川編集長が選ばれた30点について、栗駒山

今年も写真誌や河北写し、真展の審査員をつとめておられる写真家小松ひとみさんをお招きして、セミナーを開きました。石川編集長より、美しい風景写真100人展への関心の高まりとさらなるいざないの言葉を、小松さんを通じていただきました。100人展は、富士フィルムと「風景写真」編集部が主催し、公募アマチュア80人と招待プロ20人のフィルム写真からなります。この写真を作り上げる中から石川編集長が選ばれた30点について、栗駒山

今年も写真誌や河北写し、真展の審査員をつとめておられる写真家小松ひとみさんをお招きして、セミナーを開きました。石川編集長より、美しい風景写真100人展への関心の高まりとさらなるいざないの言葉を、小松さんを通じていただきました。100人展は、富士フィルムと「風景写真」編集部が主催し、公募アマチュア80人と招待プロ20人のフィルム写真からなります。この写真を作り上げる中から石川編集長が選ばれた30点について、栗駒山

今年も写真誌や河北写し、真展の審査員をつとめておられる写真家小松ひとみさんをお招きして、セミナーを開きました。石川編集長より、美しい風景写真100人展への関心の高まりとさらなるいざないの言葉を、小松さんを通じていただきました。100人展は、富士フィルムと「風景写真」編集部が主催し、公募アマチュア80人と招待プロ20人のフィルム写真からなります。この写真を作り上げる中から石川編集長が選ばれた30点について、栗駒山

今年も写真誌や河北写し、真展の審査員をつとめておられる写真家小松ひとみさんをお招きして、セミナーを開きました。石川編集長より、美しい風景写真100人展への関心の高まりとさらなるいざないの言葉を、小松さんを通じていただきました。100人展は、富士フィルムと「風景写真」編集部が主催し、公募アマチュア80人と招待プロ20人のフィルム写真からなります。この写真を作り上げる中から石川編集長が選ばれた30点について、栗駒山

## 協会企画・石巻市北上地区 東日本大震災復興支援セミナー報告

当協会との繋がりもある師としてボランティア参上。石巻市北上地区で、12月2日(日)の回、会員及び一般の方も参加の会員と合流。北上1日(土)〜2日(日)の日程で震災復興支援セミナーを開催。前日スライド&トークセミナーを行って頂いた清水哲朗プロも特別講

を受けながら撮影。昼食は上品の里。午後は神割り崎にて撮影。その後夕日を狙って北上大橋周辺にて撮影し、追分温泉に入りまし

2月3日〜5日の期間で箱根大観山と芦ノ湖から見える雄大な富士山及び山中湖のダイヤモンド富士と田貫湖の星降る富士の撮影ツアーを実施しました。箱根

協会企画撮影ツアー  
大観山と箱根からの富士山撮影報告  
2月3日〜5日の期間で箱根大観山と芦ノ湖から見える雄大な富士山及び山中湖のダイヤモンド富士と田貫湖の星降る富士の撮影ツアーを実施しました。箱根

## お知らせ

「くらんぼん」黒原範雄  
発行・裏磐梯賛歌誌・掲載  
古山善一郎 「雨水」  
古山恵子  
「夜明けのハーモニ」  
宮城県仙台市 相原 智恵子  
宮城県遠田郡 千田 キヨ子  
宮城県仙台市 阿部 和之

★新規入会会員紹介  
宮城県仙台市 相原 智恵子  
宮城県遠田郡 千田 キヨ子  
宮城県仙台市 阿部 和之

★ホームページ私の1枚に掲載の作品送付お願い  
小松プロのセミナー終了後丸山副会長が説明し、欠席者にはメールにて案内済みの、WEBギャラリー内の私の1枚に展示する作品をお待ちしております。現在4名の方しか提供がありません。ホームページは更新が必要なので是非作品を送付下さい。

★ニコンギャラリーの利用による作品展示会について  
仙台駅傍のアエル29階にニコンプラザが昨年開設され、フォトギャラリーを備えております。その利用要請がありますので、当協会として参加者を募り作品展示会を予定致します。詳細は決定次第案内致します。

写真の歴史 (I)

毎日楽しんでる写真についての歩みを調べてみました。世界最初の写真は1824年にフランスのニセフォール・ニエプスが開発したヘリオグラフィで、感光材にアスファルトを使用、撮影に8時間も要しました。実用化したのは1839年、フランスのダゲールが完成したダゲレオタイプからで、銅板の上に銀メッキを塗った板を感光させることから、銀板写真と呼ばれます。現在は感光材に臭化銀などを使用していますが、基本原理は今も一緒です。感光時間が10〜30分要し

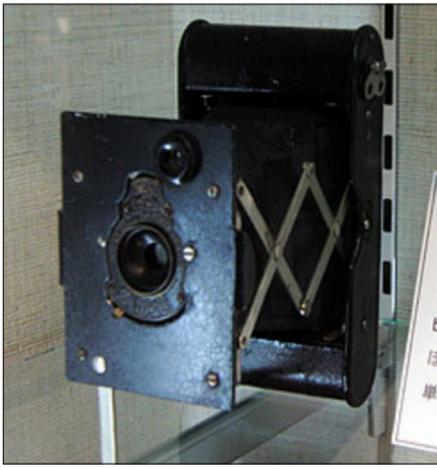
たため人物写真は撮りたくかったが、風景写真は美しく撮影できた。ただし焼き増しは不可。ダゲレオタイプ以前に、イギリスのタロポットがコロタイプを發明(但し特許取得は1841年)これが史上初のネガ・ポジ写真で、1分ほどで撮影

可能。複製が可能となった。1851年イギリスのフレデリック・スコット・アーチャーがコロジオン法の湿板タイプを開発、露光時間は5〜15秒で複製も可能。しかし、濡れた板で撮影後すぐに現像する必要があった。撮影の度大荷物を背負ってテント暗室の中で現像する必要があった。1871年、イギリスの

リチャード・リーチ・マドックスが乾板写真を発明。ついに動きのあるものが撮影可能になりました。乾板は1878年に工業生産され、湿板を駆逐。ここでコダックが1880年(明治13年)、ジョージ・イーストマンによって乾板メー

カーとして創業されました。コダックは1885年には紙をベースにした世界初のロールフィルムを開発、エジソンと協力し映画フィルムの基礎を作り、このとき企画化された35mmフィルムが現在でも基本となった。1888年コダック初め

「ポケットコダック」を開発、エジソンと協力し映画フィルムの基礎を作り、このとき企画化された35mmフィルムが現在でも基本となった。1895年小型カメラ「ポケットコダック」を開発、エジソンと協力し映画フィルムの基礎を作り、このとき企画化された35mmフィルムが現在でも基本となった。1912年「ヴェストポケットコダック」は世界最初の大量生産カメラとされています。(進藤 弘融)



ヴェストポケットコダック

かながらの松柏の盆栽と色紙を添えました。来館して頂いた方々の感想には、拙い写真にもかかわらず多大な褒め言葉を記されて頂き、望外の嬉しさです。

始まりはとても不安と心の皆様方、また多くの諸先輩方に、今となっては、吉田大進作家による企画展が随時開催され、箱根の四季をテーマの写真教室も開催されている。昨年12月に仙台三越で遠藤さんの作品展覧会がありました。

な住宅街の静かな佇まいのなかにあり、エキゾチックな雰囲気の中にミュージアムショップとカフェが併設されている。一階は円形ギャラリーとなっており遠藤桂氏の箱根からの富士山の作品が展示されている、山梨県側から撮影



写真美術館めぐり 箱根写真美術館

箱根写真美術館は、2002年に写真家遠藤桂氏により私設美術館として開館された。箱根登山ケーブルカー「公園下駅」近くの閑静な場所にあり、エキゾチックな雰囲気の中にミュージアムショップとカフェが併設されている。一階は円形ギャラリーとなっており遠藤桂氏の箱根からの富士山の作品が展示されている、山梨県側から撮影

こんな話 あんた話 第二〇話 写真の難しい話

久しぶりの東京です。天気もよくスカイツリーもよく見えて、東京もいい街だな、と外面だけ見て感じました。実際住んだら大変そうだけど。ところで、東京へ行った目的は、お堅いセミナーの拝聴でした。お題は「画像保存セミナー」主催は「日本写真学会」いかにもお硬そうなので、朝9時から夕方6時まで、お昼をはさんで8個の学術的考察をお聴きました。最初から7つ目までは、お偉い学者さんや大学教授、研究員の方々が長年研究していた「画像保存」についての研究発表で、難しい(はつきりいって解らない)化学式や検証データの羅列で、聴いているそばから忘れ、眠くなるものでした。画像についてカビの化学式とか、保存環境の条件別検証の考察とか、もうちょっと私にその素養があったなら、眠くはならなかったのでしょうか。

保存に関する考察とお堅いですが、内容は「アマチュアの皆さん、ご自分の写真はどのようにしての。どうするの」という話です。前段のセミナーにおける「カビ」の話や「保存環境」の話は大切ですが(たぶん)、自分の写真の原板やデータは将来どうするか、も大きな問題だと思ふのです。撮った本人が一番、価値を評価しているのでしょうか、それを受ける、または置き去りにされた？押し付けられた？家族は同じ評価をするのでしょうか。ほとんどが価値として評価しない「ゴミ」として片付けられてしまう。皆さんもいままでに撮影したフィルムやプリント、そして写真機材が山をなしているのでしょうか。きれいに整理されているでしょうか、自分なりに整理でき、とても人が判別できるような整理ではないでしょうか。受け取る側は「何これ？」なのです。

天体写真や風景写真を撮り、写真雑誌やブログに発表していましたが、はたと考えたそうなんです。このフィルムや写真データは自分以外のものにとつて、どういう存在価値や利益価値があるのか、ましてや家族にとつてどのような歴史的価値があるのかと。そこで山野氏はデータ別に項目別にできるだけ客観的に分類したのでした。

この先が、興味ありますね。私のコラムの許容字数はここまでです。つづきを来季号とすると、内容が色褪せてしまふので、つづきを知りたい方は、お知らせ下さい。お送りいたします。(丸山真一)

編集後記

今号から秋葉編集長のお手伝いをします藤枝です。主に2面を担当します。新しく立ち上げたホームページとともに会員の皆様の情報交換・交流の場として紙面を作りたいと思っていますので、従前にも増してご協力お願いいたします。

昨年に続き定期総会時に小松ひとみさんのスライド&トークセミナー「写真のいろいろ」を掲載いたしました。ホームページへ投稿をお待ちしています。

私の初個展から

山形 須貝 勝美

この度初の個展を開きました。私がカメラを持ったのは、平成2年の2月から約22年撮影を続けております。「ほんわ館」という昨年新しくオープンした私の住む中山町の図書館です。その中のエントランスギャラリーで展示しました。

10月中旬、スカイ館長さまからお話を頂いたときは驚きと楽しさが入り混じった心境でした。それから11月21日、29日までの写真展準備におおわらはです。コンセ

繰り返しながらも、段々と勇気と自信が湧いてまいりました。写真サイズは案内状に使った東風協企画撮影会での富士山の全紙

初個展ということになり、思い切り自由に遊び、来館して頂いた方々に、何かしら得るものがあればと僅



かながらの松柏の盆栽と色紙を添えました。来館して頂いた方々の感想には、拙い写真にもかかわらず多大な褒め言葉を記されて頂き、望外の嬉しさです。



うか。撮る人、写す人、見る人それぞれに、同じ写真が自分の想っている以外の違った感覚が受けられるかもしれません。最後になりませんが、今回の写真展にあたり、多大な協力を頂きました、竹内会長をはじめ役員

連絡先0460 (82) 2712 入館料 500円 (竹内 正)